

令和7年度熊本市小英研 研究部提案について

1 研究主題

主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする児童の育成
～互いの考えや気持ちを外国語で伝え合う授業の創造を通して～

2 研究主題について

(1) 「主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする児童」の具体像

本研究における目指す児童の主体的な姿とは、思考を働かせながら獲得した知識及び技能を生かし、自ら設定した課題解決に向けて、見通しをもって、言語活動に粘り強く取り組む姿である。また、その粘り強い取組を行う中で、試行錯誤しながらも自らの学びを調整し、目的や場面、状況等に応じたコミュニケーションを図る姿である。

(2) 「互いの考えや気持ちを外国語で伝え合う授業の創造」の具体像

児童が言語活動に主体的、意欲的に取り組むことができるように、指導者は児童理解を基にして他教科等の学習や学校の特色を生かし、相手を意識した、必然性のある、「ほんもの」の言語活動を工夫し、児童とともに授業を創造していくことを目指していく。

3 研究の仮説

外国語でコミュニケーションを図る必然性のある言語活動を取り入れた学習過程や指導と評価の一体化の方法及び学年間や他教科等とのなめらかな接続・連携を工夫すれば、児童が外国語で伝え合う意欲を高め、主体的に学習に取り組む態度が育成されるであろう。

4 研究の視点

(1) 外国語でコミュニケーションを図る必然性のある言語活動を取り入れた学習過程の工夫

- ・児童が取り組みたくなる課題設定の工夫
- ・単元など内容や時間のまとまりを見通した授業づくり
- ・目的・場面・状況等を意図した必然性のある言語活動の設定

(2) 指導に生かす評価の工夫

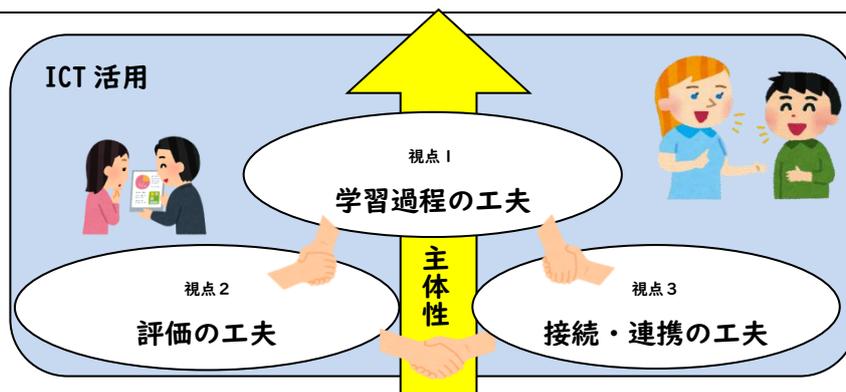
- ・メタ認知による学習調整を図ることができる中間指導を指導者の指導改善に生かす工夫
- ・児童が自分の学びを実感する振り返りと（教師、児童から児童への）フィードバックの工夫
- ・プレゼンや動画、レポート等のパフォーマンス評価などを取り入れた多面的・多角的な評価の工夫

(3) なめらかな接続・連携の工夫（外国語活動から外国語科へ・中学年から高学年へ、小学校から中学校へ）

- ・学習内容、学習方法、教材の系統性、および児童の学びの指導者における共有
- ・中学校英語教育へなめらかに接続するための中学校校区等における小小連携や小中連携
- ・他教科等や単元間等の横断的な学習の充実

5 構想図

主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする児童の育成
～互いの考えや気持ちを外国語で伝え合う授業の創造を通して～



【仮説】外国語でコミュニケーションを図る必然性のある言語活動を取り入れた学習過程や指導と評価の一体化の方法及び学年間や他教科等とのなめらかな接続・連携を工夫すれば、児童が外国語で伝え合う意欲を高め、主体的に学習に取り組む態度が育成されるであろう。